



2026年9月28日

**日本音響学会 第155回(2026年春季)研究発表会
学生優秀発表賞 受賞**

<概要>

豊橋技術科学大学 情報・知能工学専攻博士後期課程1年の森滉斗（聴覚心理物理学研究室）が、日本音響学会 第155回(2026年春季)研究発表会 学生優秀発表賞を受賞しました。発表題目は「高齢者における音声弁別課題と時間分解能・時間微細構造処理の相関」です。

<詳細>

本研究では、高齢者が他者の声（話者）を聞き分ける能力が低下する要因として、聴覚末梢機能の低下が与える影響を調査しました。

音声モーフィング技術を活用し、声のピッチをある話者からもう一方の話者へと変化させたとき、ヒトはどこで聞き分けが難しくなるのか？（音声弁別閾値）を測定する音声弁別実験を実施しました。この実験において、高齢者の聴力を模擬する模擬難聴システムを利用した若年健聴者と高齢者の音声弁別閾値を比較した結果、高齢者の音声弁別の困難さが単なる聴力低下（純音聴力閾値の上昇）のみでは説明が難しいことを確認しました。

そこでさらに、聴力閾値上の処理能力を評価するため、聴覚における時間分解能や時間微細構造処理能力を測定しました。その結果、高齢者には音の細かい時間変化を捉える能力の低下が確認され、話者を聞き分ける際の困難さには、可聴域の低下だけでなく時間的な情報処理能力の低下が複合的に影響していることが示唆されました。

本賞は、当該研究成果についての日本音響学会 第155回(2026年春季)研究発表会での発表が評価され、授与されたものです。

<今後の展望>

本研究では、近年社会問題となっている音声利用型特殊詐欺（オレオレ詐欺など）において、高齢者が電話口で音声を誤認しやすい要因の一つを説明する手がかりとなる可能性があります。今後は、様々な音声条件での検証や複数の実験を組み合わせた調査を進め、高齢者の音声弁別に対する理解を深めていくことを予定しています。将来的には加齢による聴覚特性の変化や音声知覚メカニズムの解明に寄与し、高齢者の効果的なコミュニケーション支援策や個別化されたリハビリテーション戦略の基盤構築に貢献することを目指しています。



本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 高柳・野本

TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509